

ジーニアス・ファミリー

出発から電子辞書まで

現在、「ジーニアス・ファミリー」の核を構成する辞典は以下の5点である。

- (1a)「ジーニアス英和辞典〈第4版〉」(G4)
- (1b)「プラクティカル ジーニアス英和辞典」(PG)
- (1c)「ベーシック ジーニアス英和辞典」(BG)
- (2)「ジーニアス英和大辞典」(G大)
- (3)「ジーニアス和英辞典〈第2版〉」(GW2)

書籍版以外に、小社では、(2)のCD-ROM版、(1a)(3)を1枚にしたDVD-ROM版を発行している。

■ジーニアス英和初版

『ジーニアス英和辞典』初版の計画は、1976年ごろに小西友七先生（神戸市外国語大学）に相談を持ちかけたのが始まりだった。小社の月刊誌『英語教育』のQuestion Box欄の回答者として信頼を集めていた小西先生に単独で「編集主幹」となっていただき、先生の辞書編集と英語教育の経験のすべてを注ぎこんだ新しい学習辞典を作りたい、ということで話が進んだ。

最初は資料収集（特に用例の収集）から始まり、原稿の執筆と校閲が行われたのは1980～84年ごろだった。当時ワープロはまだなく、資料収集はカードで行われ、原稿はすべて手書きだった。

組版と校正は84年～87年で、グーテンベルク以来の金属の活字による組版である。校正刷りには、何人もの先生が検討した色とりどりの文字が入って、関西との間を飛び交った。

刊行前の夏に、事前の宣伝も兼ねて、辞書の名前を公募した。「ジーニアス」という名は2人から応募があった。

刊行は1987年11月、話を始めてから足かけ12年かかった。結果的に、コンピュータを使わないで作られた最後の辞書となった。

初版発刊のころは、高校生用には、どちらかというとあまり厚くない辞典が売れていたが、ジーニアスはそこに「重厚長大」な辞典として参入した。高校の先生方にまずお見せしたところ、「さすがに小西先生の辞典、語法の注記が詳しい」「日本人が間違えやすい点への配慮がありがたい」といった評価をいただき、生徒さんに勧めていただけるようになっていった。

■その後の改訂——G4へ

初版の6年後の1993年12月に「ジーニアス英和辞典〈改訂版〉」(G2)が刊行され、このときからコンピュータ組版になった。コンピュータ組版によって、「データ化」への道が開け、CD-ROMや電子辞書といった形での利用が可能になった。2色刷になったのはこのときからである。

「第3版」(G3)は2001年10月刊行で、その前2001年4月に出た「ジーニアス英和大辞典」の成果を取り入れた。このころから、資料としてコーパスを使うようになった。

初版から19年後の2006年12月、語義区分と排列、用例をすべて再検討するなど、これまででいちばん大きな改訂を施した「第4版」(G4)が刊行になった。コーパスが全面的に使用され、資料

収集にはインターネットが活躍した。第4版の作業の大詰めの9月に、小西先生が89歳で逝去された。

■高校生用のジーニアス

ジーニアス英和には、その間、「弟分」にあたる辞典が生まれた。

最初は1988年11月刊の『フレッシュ ジーニアス英和辞典』である。これは『ジーニアス英和辞典』の組版を一部再利用して、高校生に必要な語・語義を中心に編集したもので、ジーニアスの翌年に刊行した。『フレッシュ』はその後、1度改訂し、あわせて2色刷版を出した。

これに続く高校生専用の辞典として編集されたのが、1998年の『アクティブ ジーニアス英和辞典』であり、さらにその次の『プラクティカル ジーニアス英和辞典』(2004)である。『プラクティカル』は、兄貴(ジーニアス英和)からはかなり離れ、巻末の「文法のまとめ」との間の連携をはかるなど、高校生・受験生にもっとも使いやすい辞書となっている。

末弟の『ヤング ジーニアス英和辞典』は1991年に「いちばんやさしいジーニアス」として、最初から2色刷で誕生した。「語義の図解」「Q&Aによる解説」「対話用例」の収録で、好評をいただいた。

この後継が『ベーシック ジーニアス英和辞典』で、カナ発音を初めて掲載した。

■大辞典

ジーニアス英和初版刊行から5年ほどの間に、世界ではベルリンの壁の崩壊とドイツ統一、ソ連の解体、EUの発足といった大変動があった。その後インターネットが急速に普及し、英語による大量の情報が世界をかけめぐりようになった。

こうした中で登場した新語・新語義を初め、専門語・俗語など、学習英和辞典の枠を超えるニーズに応えるために、大辞典の編集を行った。

G2(ジーニアス英和改訂版)をベースにして、見出し語を十数万語追加したわけだが、学習辞典とは違う立場での記述が必要なので、ベースの部分もかなりの書き直しをすることになった。また、専門語については諸分野の専門家100名以上に校閲を依頼した。

■和英辞典

『ジーニアス英和辞典』は、英和に10年遅れての刊行となった。この和英初版は、ジーニアス英和に豊富に含まれる「発信用」の語義・用例を日本語で引く、というのが最初の発想だったため、見出しの下に、英和辞典と同様の見出し・訳語・例文が並ぶユニークな構造になっている。小西先生は、これを「ハイブリッド方式」と名付けた。

2003年の「第2版」では、見かけ上かなり「普通の和英」に近い構造にする一方で、用例の追加・入れ替えを行って、内容の充実を図った。

■電子辞書 & MX

1990年代末から、書籍の辞典を丸ごと収録した電子辞書の普及が始まり、辞典の世界は大きく変わった。

ジーニアス英和の電子辞書としては、1997年夏のシャープ機にG2が搭載されたのが最初だった。その後、和英も含めて、カシオ、セイコーインスツル(SII)、キヤノンの各社の製品にも搭載されるようになった。英和・和英とも書籍の改訂に合わせて新しい版になっている。

一般用機種には『ジーニアス英和大辞典』が多く搭載され、また中学・高校生用に『ベーシック ジーニアス』を収録した機種もある。

その他、書籍では刊行されていないが、G4/G和英2を基にして小さい液晶画面でも見やすいように編集した『ジーニアス英和MX』『同 和英MX』という辞典もあり、携帯電話やスマートフォン端末で活躍している。

(大修館書店編集部)